

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 25 日現在

機関番号：33911

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520763

研究課題名(和文)日本中世宗教絵画史料の調査と史料論的研究

研究課題名(英文)The investigation into Japanese Middle Ages religion picture historical materials and study of the historical materials idea

研究代表者

脊古 真哉 (Seko, Shinya)

同朋大学・仏教文化研究所・客員所員

研究者番号：20448707

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：絵画そのもの、および付随する文字史料、関連する行事・儀礼について、総合的な調査・研究を実施した。具体的には、研究期間を通じて、東海地方・北陸地方・近畿地方・中国地方での中世・近世宗教絵画史料の調査と、関連する文字史料・行事・儀礼の調査、それらの整理・分析・検討を進めた。さらに、アジア東方の漢訳仏教圏のなかでの日本の仏教、絵画史料の特性を見通すための作業として、平成26年度には、中国山東省の寺院・祠廟・遺跡・博物館等を踏査・調査・見学し、多くの文化財を実見・調査することができ、日本の宗教文化財との関連について貴重な知見を得た。

研究成果の概要(英文)：Painting itself, and the accompanying letter historical materials, for the relevant events, rituals, was carried out comprehensive surveys and research. Specifically, throughout the study period, research and of the Middle Ages, early modern religious painting historical materials in the Tokai region, Hokuriku, Kinki, Chugoku, investigation of the associated character historical documents, events, rituals, they organize, analyze and study the advanced. In addition, of among the Han translated Buddhist area of Asia east Japanese Buddhism, as work to predict the characteristics of the painting historical materials, in the 2014 fiscal year, The survey the temple, shiyo, ruins, museums, etc. in Shandong Province, China the investigation and visit, it is possible to be empirical and research a lot of cultural assets, to give a valuable knowledge about the context of the Japanese religious cultural assets.

研究分野：日本宗教史

キーワード：絵画史料 宗教絵画 日本仏教 浄土真宗 聖徳太子信仰 東海地方 神仏習合

1. 研究開始当初の背景

(1)熊野比丘尼の活動を取り上げた萩原龍夫氏の研究(同氏『巫女と仏教史』吉川弘文館1983年)で、それまでほとんど知られていなかった絵画である観心十界曼荼羅が紹介された。萩原氏の著書では、計8点の観心十界曼荼羅が示されたが、その後、多くの研究者の関心を集め、現在では50点内外の同絵画が確認され(小栗栖健治『熊野観心十界曼荼羅』岩田書院2011年)、この絵画に関する多くの事実が明らかになってきている。

(2)観心十界曼荼羅によって火ぶたが切られた中世後期・近世の宗教絵画に対する関心は、文学研究の方面から、「絵解き研究」という新しい研究分野を生み(林雅彦『増補日本の絵解き』三弥井書店1984年)、それまでに増して、高僧絵伝や寺社縁起絵などの各種の説話画の事例の紹介・研究が進められるようになった。また、各寺社の参詣図を探索・紹介することも盛んとなり(大阪市立博物館編『社寺参詣曼荼羅』平凡社1987年)、さらに近世のものも含めて地獄絵に対する関心が高まった。

(3)これらの研究では、大まかに見て、「絵解き研究」に顕著に見られるように、「絵を読む」ことに意を用いるあまり、絵画そのものの史料論的検討が、ややなおざりにされてきたきらいがある。すなわち、時代判定・真偽判定・付随する文字史料との関連などの点である。大部分が近世のものである観心十界曼荼羅や寺社参詣図などを、漠然と中世後期の宗教状況のなかで捉えようとする傾向があった。

(4)研究代表者は、地域の史料調査の過程で、観心十界曼荼羅や関連する地獄絵に出合い(脊古「宗禅寺蔵、観心十界曼荼羅について」『東海学園女子短期大学紀要』28 1993年)、また、滋賀県湖北地域をはじめとする各地の浄土真宗寺院の史料調査を通じて、膨大な絵画史料に接してきた。真宗寺院の絵画史料調査については、研究代表者が中心的な役割を果たした同朋大学仏教文化研究所編『蓮如方便法身尊像の研究』(法蔵館2003年)をはじめ、何冊かの研究図書にまとめることができた。これらの一連の成果は、東京文化財研究所編『日本絵画史年記資料集成 十五世紀』(中央公論美術出版2011年)で、収載資料の典拠として100箇所以上が引用されている。

2. 研究の目的

(1)浄土教に関わる絵画をはじめとして、中世の絵画史料は膨大な点数が伝存している。近年では、これらの絵画史料について取り上げられる機会が多くなってきているが、しかしながら、なお、日本史研究の史料としても、美術史研究の資料としても、十分な調査・研究が実施されているとは言えない状況がある。本研究では、日本宗教史の史料として大きな位置を占める絵画について、多くの事例

を調査し、史料としての取り扱い方、時代判定や真偽判定、付随する文字史料との関連、行事・儀礼の中での位置づけなど、絵画史料に関する総合的な研究成果を提示し、日本中世の宗教絵画史料に関する史料論の確立を目的とする。

(2)本研究の特色および独創性は、すでに述べたように、これまでの研究代表者の宗教絵画史料調査の経験と実績を踏まえて、絵画そのもの、および付随する文字史料、関連する行事・儀礼について、総合的な調査・研究を実施し、時代判定や真偽判定の精度を高め、日本中世の宗教絵画に関する史料論を確立しようとするところにある。このために、より多くの絵画史料の調査を実施し、さらなる調査データの蓄積を図りたい。

(3)このことにより、教団史や宗派史を超えた、教理や教義からうかがえるものとは異なる面もある、絵画史料から見た日本中世の宗教史のかたちが明らかにできると考えている。また、これまでにも、研究代表者は、地域を限定した悉皆的調査・研究の成果を公表してきている(脊古「湖北地域における本願寺教団の展開 称名寺とその門末を中心に」同朋大学仏教文化研究所編『実如判五帖御文の研究』研究篇下 法蔵館2000年、「郡上安養寺の成立と展開 初期真宗門流から本願寺教団への一例」水野柳太郎編『日本古代の史料と制度』岩田書院2004年)。本研究でも他の地域で同様の成果を示し、地域社会を対象とした、きめ細かな宗教史を提示することができるものと考えている。

(4)さらに中国・韓国の宗教絵画の事例と比較・検討することによって、日本中世の宗教絵画の特性を明らかにできるものと考えている、これは、単に絵画史料だけの問題にとどまらず、アジア東方の漢訳仏教圏のなかでの日本仏教の特性までもが見通せる視角が期待できるものとなる。

3. 研究の方法

(1) 関係図書・資料等の収集

新刊図書、新規の博物館展示図録、調査報告書等を中心に多数の図書を購入した。

中国山東省での調査・踏査・見学に際して多数の図録等の関係図書を購入した。

(2) 史料調査・現地調査

東海地方、北陸地方、近畿地方の寺院史料調査。未調査の寺院、これまでほとんど調査されていない真宗道場を主な対象に調査を実施した。

中部地方山間部の長野県・静岡県の集落に伝えられた絵画史料の調査を実施した。

愛知県豊田市の市史編纂に伴い、豊田市内の絵画史料の悉皆的な調査に参加した。

東海地方・近畿地方での新春行事を中心

とする行事・儀礼の調査を実施し、絵画史料に描かれる行事・儀礼との比較・検討を行った。

北陸地方の神社・神宮寺に関する絵画史料の調査を実施し、関連する文字史料・考古資料をも加味した検討を加えた。

中国地方の島根県・岡山県・広島県での寺社の踏査を実施し、それぞれの現状と絵画史料に描かれるかつての状況と比較し、また考古資料をも加味した検討を加えた。

三重県伊賀市の常楽寺所蔵の初期の神仏習合の史料として著名な大般若経の調査を実施し、多くの新たな知見を得ることができた。

(3) 国外調査

中国山東省青州市の龍興寺、雲門山石窟などの山東省の寺院・仏教関係遺跡・博物館での調査・踏査・見学を実施した。

(4) 調査資料の整理

調査史料の計測データ、行事・儀礼のモノグラフなどを電子媒体で整理した。

写真撮影・ビデオ撮影した資料を電子媒体で整理した。

特にこれまでに膨大なデータを蓄積している真宗絵画史料については、従前の調査資料に組み込んでの一覧表化・グラフ化を実施した。

(5) 研究会の開催

研究会は、研究代表者が主催して、所属機関である同朋大学仏教文化研究所および非常勤講師を務める名古屋市立大学人文社会学部で開催した。

報告者およびコメンテーターとして佐藤文子氏（仏教大学）、藤原崇人氏（関西大学）、早島有毅氏（元藤女子大学）を招聘し、他にも多くの参加者を得て、活発な討議を実施することができた。

4. 研究成果

(1) 絵画そのもの、および付随する文字史料、関連する行事・儀礼について、総合的な調査・研究を実施した。具体的には、研究期間を通じて、東海地方・北陸地方・近畿地方・中国地方での中世・近世宗教絵画史料の調査と、関連する文字史料・行事・儀礼の調査、それらの整理・分析・検討を進めた。さらに、アジア東方の漢訳仏教圏のなかでの日本の仏教、絵画史料の特性を見通すための作業として、平成26年度には、中国山東省の寺院・祠廟・遺跡・博物館等を踏査・調査・見学し、多くの文化財を実見・調査することができ、日本の宗教文化財との関連について貴重な知見を得た。

(2) 同朋大学仏教文化研究所の2013年度前期展示「聖徳太子信仰の世界」を企画・統括し、聖徳太子信仰に関わる多くの絵画史料・文字

史料・彫刻の展示を実施した。同展の展示図録である同朋大学仏教文化研究所編『聖徳太子信仰の世界』同朋大学仏教文化研究所、全12頁、2013年）を編集し、展示資料の解説の大部分を執筆した。

(3) 脊古真哉「滝山寺の鬼祭 修正の田遊びと鬼会」『同朋大学佛教文化研究所紀要』32、49-73頁、2013年。愛知県岡崎市の滝山寺の修正会で実施される儀礼・芸能について、現状の分析と歴史的変遷などを考察した。

(4) 北陸地方の若狭神宮寺、気比神宮寺、御子神宮寺（織田寺）、気多神宮寺について、現地を踏査し、その成立と展開を文字史料・絵画史料・考古資料から総合的に検討し、初期の神宮寺の成立に突いての新たな視点を提示した。脊古真哉「北陸道の初期神宮寺」『同朋大学佛教文化研究所紀要』33、37-54頁、2014年。

(5) 豊田市史編纂に参加し、豊田市内の真宗寺院の所蔵品を中心とする絵画史料の悉皆的な調査に基づき、知見を発表した。新修豊田市史編さん委員会編『新修豊田市史』別編美術・工芸、愛知県豊田市、2014年。この中の「真宗絵画史料」182-192頁では市域の真宗絵画史料の特質について述べ、「資料解説」計13点・26頁では特筆すべき中世・近世の絵画史料について、他の地域での調査の成果を踏まえて解説した。

(6) 中国地方の岡山県・広島県（旧備前・備中・備後国）に所在する吉備津宮（吉備津神社・吉備津彦神社）および美作国の中山神社を踏査し、吉備津宮および中山神社の成立と展開について、文字史料・絵画史料・考古資料から総合的に考察した。脊古真哉「吉備津宮考」『同朋大学佛教文化研究所紀要』34、1-21頁、2015年。

(7) 東大寺の修二会（お水取り）をはじめとする近畿地方・中部地方の多くの新春行事の調査を実施した。行事・儀礼の現状と文字史料・絵画史料を比較・検討して、ひろく日本における新春行事の展開について絵画史料からの見通しを得ることができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

脊古真哉、吉備津宮考、同朋大学佛教文化研究所紀要、査読有、34号、2015、1-21

脊古真哉、北陸道の初期神宮寺、同朋大学佛教文化研究所紀要、査読有、33号、2014、37-54

脊古真哉、滝山寺の鬼祭 修正の田遊びと鬼会、同朋大学佛教文化研究所紀要、査読有、32号、2013、49-73

〔学会発表〕（計7件）

脊古真哉、吉備津宮と神宮寺、アジアにおける仏教と神信仰研究会、2015年1月10日 於名古屋市立大学人文社会学部

脊古真哉、初期の神宮寺、美術文化史研究会、2014年7月25日、於名古屋市公会堂

脊古真哉、日本古代における神仏交渉の展開、美術文化史研究、2014年6月20日、於名古屋市公会堂

脊古真哉、北陸道の初期神宮寺、神仏習合研究会、2013年10月29日、於名古屋市立大学人文社会学部

脊古真哉、聖徳太子信仰のひろがり、同朋大学仏教文化研究所 2013年度前期展示講演会、2013年6月29日、於同朋大学仏教文化研究所

脊古真哉、地域社会における堂と社、神仏習合研究会、2013年5月26日、於京都大学文学部

脊古真哉、感生説話のひろがりから見た<聖徳太子の誕生>、「日本仏教の成立と展開」研究会・絵画史料研究会、2012年7月7日、於同朋大学仏教文化研究所

〔図書〕(計4件)

脊古真哉、日本宗教史懇話会サマーセミナーと見学会(史料展観)、129-132頁、日本宗教史懇話会編、岩田書院、日本宗教史研究の軌跡と展望、2014、全196頁

脊古真哉、真宗絵画史料(182-192頁)資料解説(計13点・26頁)、新修豊田市史編さん委員会編、愛知県豊田市、新修豊田市史 別編 美術・工芸、2014、全490頁

同朋大学仏教文化研究所編(脊古真哉・小島恵昭・小山正文・吉田一彦)、同朋大学仏教文化研究所、聖徳太子信仰の世界、2013、全12頁

同朋大学仏教文化研究所編(松金直美・脊古真哉・青木馨・安藤弥)、同朋大学仏教文化研究所、仏教文化研究の展開 法宝物・書物・行列図、2012、全12頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
脊古 真哉 (SEK0, Shinya)

研究者番号：20448707

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：